



さい帯血バンクNow

第46号

2009年3月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：中林正雄（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417

<http://www.j-cord.gr.jp/>

さい帯血移植に大きな比重 造血細胞移植学会札幌で開催

去る2月5日と6日、札幌市で第31回日本造血細胞移植学会総会が笠井正晴会長（札幌北楡病院）により開催され、日頃からさい帯血バンクやさい帯血移植に携わる関係者のみなさんが集まり、活発な論議や報告が行われました。

この学会は時期を「さっぽろ雪まつり」にあわせての開催であったため、雪まつりを楽しもうという関係者も多

かったようです。ロイトン札幌、札幌市教育会館、北海道厚生年金会館の3会場で同時進行で行われた今回の学会



市民公開講座で講演したみなさん

には、血液内科や小児科、輸血科の医師をはじめとし、看護スタッフやボランティアなど3000名ほどが参加して盛会となりました。この学会では年々、さい帯血移植に関するセッションが

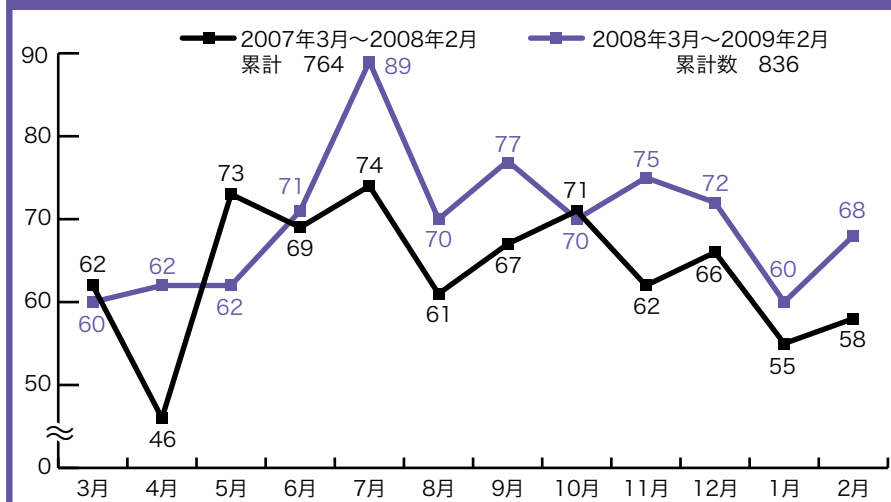
増加していますが、今年も大きな時間を割いて、さい帯血移植関連のワークショップやシンポジウムなどのセッションがもたれました。

6日午前に行われた「さい帯血移植法の進歩」と題されたシンポジウム（座長：加藤俊一・谷口修一）では、虎の門病院からさい帯血ミニ移植、東大医科研からG-CSF前処理法などの報告のほか、米ミネソタ大学クラウディオ・ブランスタイン氏による複数さい帯血移植に関する講演もあり、世界的に行われているさい帯血移植の第一線での状況が明らかにされ、わが国は世界のさい帯血移植をリードしている状況が示されました。

また、昨年12月にさい帯血バンクと骨髄バンクにとっては記録すべき症例数を突破したことを記念して、6日夜には市民公開講座「骨髄バンク移植1万例・さい帯血バンク移植5千例の歩み」が開催されました。この市民公開講座では、骨髄バンクの1万例までたどってきた足跡と、さい帯血バンクが歩んできた5千例までの道のりについての講演のほか、ボランティアや骨髄移植、さい帯血移植を受けて社会復帰された患者さんたちのお話もあり、患者さんの切実な闘病体験には会場に詰めかけた聴衆のみなさんの涙を誘っていました。

非血縁間さい帯血移植状況 (2009年2月28日現在の速報値)

移植数（累計） **5197** 公開数 **31131**





できました 「患者・家族向けリーフレット」

本誌第43号でお知らせしたとおり、日本さい帯血バンクネットワークは昨年、患者擁護委員会を設置しましたが、このたび、この委員会が「患者・家族向けリーフレット」を作成しました。これは患者さんへの情報提供を行うにあたり、どのようなことができるのかを議論した中で、日本さい帯血バンクネットワークとして患者さんに向けて提供できる情報を、必要としている患者さんやその家族に向けて、地域的・物理的状況に関わらず、できるだけ幅広く伝える、ということを目的としています。

当然のことながら、患者さんやその家族がさい帯血移植について考える場合、移植の施設や症例数、入院生活、その他の治療法との比較や移植後の生活など、それぞれの段階に応じて必要

とする情報は様々です。今回作成したリーフレットには、さい帯血移植に関するごく初歩的な内容やボランティア団体が運営する患者相談窓口などを掲載し、治療を考える場合など初期の段階にお役立ていただければ、と考えています。

このリーフレットは、A4版1枚に

両面印刷した簡単なものですが、折り目に沿って折り、ミシン目のところを切ると、読みやすい形に誰でも小さく折り畳めるものになっています。医療機関やボランティア団体、患者会などでご活用いただければと思います。必要部数を日本さい帯血バンクネットワーク事務局にご請求ください。



日本さい帯血バンクネットワーク 設立10周年記念事業のお知らせ

日本さい帯血バンクネットワークは1999年8月11日に設立総会を開催して発足しました。今年で設立から10周年という節目の年を迎えることになりました。これを記念して、私たちは10周年記念事業を開催することになり、企画実行委員会を設置して昨年より準備を進めています。10周年記念誌を発行するほか、8月には早稲田大学国際会議場の井深大記念ホール等の施設にて行われる記念大会では、10年の歩みを報告する記念式典のほか、さい帯血移植国際シンポジウム「世界のさい帯血移植事情」やさ

い帯血採取現場の研究シンポジウム、患者のみなさんに集まっていた市民公開シンポジウム「明日のさい帯血バンク」などを予定しています。これらのシンポジウム等は、どなたでも参加できます。なお、参加者全員には10周年記念誌を進呈することになっています。開催時間などの調整を現在進めているところですが、決定次第本誌でもご案内することになっています。8月29～30日の両日は、ぜひ会場においでくださいよう、いまからご予約を組んでいただければと思います。

設立10周年記念事業

と き：2009年8月29日（土）
30日（日）

ところ：早稲田大学国際会議場
井深大記念ホールほか
東京都新宿区西早稲田1-20-14



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪府北区本庄西3丁目9番3号



連載

私とさい帯血移植「医師として患者として」

第6回◎ 移植当日を迎えて

田結庄 彩知

■移植に臨む

移植という治療は、長い長い闘いの日々だ。新しい命を迎える一週間前から前処置が始まり、抗がん剤や放射線で自分の血液細胞をある程度破壊する。副作用である下痢や吐き気に耐えながら移植の当日を迎えるが、いただいたさい帯血の細胞が新しい血液を作りだす「生着」という目標に達するには、さらに約3週間が必要で、それまで持ちこたえられるかどうか勝負だ。その間、白血球は極端に少なくなり、抵抗力が無くなるので、感染症にかかりやすく、命を奪われることもある。移植をしても、生着不全といって、新しい細胞が骨髄に根付かず失敗に終わる場合もあり、当時、成人の再生不良性貧血に対するさい帯血移植は、生着不全の確率が高く勧められないと、どの専門書にも書いてあった。生着したとしても、それまでに1カ月以上かかる人もいる。とにかくこの先は、長期戦になるのだ。前処置が始まる前から白血球がゼロに近く、感染症のコントロールもできていない私が挑むこの移植は、人生最大の賭けになると思った。両親には「命を救うためにはさい帯血移植をするしかないが、非常に厳しい」と主治医から告げられていて、その日が来ても慌てないように「葬儀屋を探した」と後になって聞いた。ある夜、病室にきた担当医に「人工呼吸器も、人工透析も、できることは全部やって欲しい」と話した。この先、どうなるのか分からないから、自分がまだ話せるうちに、判断ができるうちに、最期まで戦いたいと伝えておきたかった。「絶対に助けるから」と握ってくれた手は、温かくて、力強く、信じるしかないと思った。新しい命を信じ、医学の進歩を信じて、生きてさえいれば、一日でも長く生き続けることができれば、チャンスはきっと巡ってくる。そ

の時が来るのを、できるだけ体力を温存し、淡々と毎日を過ごしてじっと待とう。ただ生きるためだけに、今日を精いっぱい生きる。まずは移植の日を迎えることが、目標だった。

■支えてくれる人

高熱と吐き気と下痢で、一日中ベッドに寝たきりの状態になった。それでも、箸を握りしめるようにして、毎日食事を摂る。「食べていれば、死なないかもしれない……」何の根拠もなかったが、私にできることはそれぐらいだった。放射線や薬のせいか、ご飯はまるで砂をかんでいるような感覚で、何を食べても、ほとんど味なんて分からなかった。抗がん剤の影響で数日後には抜け落ちる髪の毛を洗う体力も、もったいなくて、バリカンで丸刈りにして（写真）もらった。悲しそうな顔で見つめる母の姿が鏡越しに見えて「かわいいよね」とツルツルになった頭をたたいて、おどけてみせた。生き延びるためなら、何の未練もなかった。そんな私に、ある看護師さんがかけてくれた言葉を、今でも忘れることができない。彼女は3年日記というものを付けていて、一年後の今日のページに「久しぶりに田結庄先生に会いに行った、元気で暮らしていた」と書いた、と話してくれた。明日どうなるかも分からない私の、一年先の未来を信じてくれているのだ。うれしくて涙がこぼれ、絶対に頑張ろうと心に誓った。研修医の同期からは一枚の色紙が届いて「もう一度、この仲間のもとに帰ろう」そう決心もした。闘いは一人ぼっちじゃない。家族や、病院のスタッフ

や、たくさんの仲間からの励ましが、折れそうになる私の心を支えてくれた。ある日、テレビで交通事故のニュースが流れて、ハッとした。抵抗することもできず、一瞬にして命が奪われることもあるのだ。それに比べて、私には移植という最新の治療法と、それを支えてくれる主治医や家族がいる。今がどんなにつらくても、結局は命を落とすかもしれない、闘える土俵のある私は、幸せだと思った。

■神秘的な瞬間

8月5日、移植の当日、10日ぶりに熱が下がった。いつもより早い時間に病室にきた母は、ベッドにひょっこり座っている私を見て、「助かった」と思ったという。とにかく、待ち望んだこの日を迎えることができた。この先はまだまだ長い、生きるための希望が繋がったと思った。私に新しい命をくださったお母さんと赤ちゃんに、そしてこのチャンスを与えてくれた多くの方々に、心から感謝した。点滴の管を通して命が宿るその瞬間は、言葉にはならないたくさんの気持ちが心にあふれて、とても神秘的で、奇跡をみているようで、息苦しかった。ようやくここまで来たのだから、いただいた命を信じて、あせらないで、あわてないで、じっくり待ち続けよう。今日が、私の2つ目の誕生日。おかあさん、いのちを、ありがとう。



筆者プロフィール

たいのしょうさち◎1977年神戸市生まれ。2002年、香川大学医学部卒業後、国家公務員共済組合虎の門病院内科にて研修。2004年、重症再生不良性貧血と診断。ATG療法施行も効果なく8月にさい帯血ミニ移植を受ける。2005年、虎の門病院を退職し東京医科大学大学院に進学。2007年6月、晩期生着不全で再入院。7月、2度目のさい帯血ミニ移植を受け、8月に退院し今に至る。



さい帯血バンク 道具箱

①9 無菌試験用培地

最終回

どんな菌も侵入「菌」止

世間はバイ菌がいっぱい

自然界には、人間にとって良い菌、悪い菌がいっぱいいます。私たちの身の回りにも、あちこちにいろいろな菌がありますが、非常に小さいため普通は目に見えません。パン生地が膨らんだり、牛乳が固まってヨーグルトになったり、あるいは食中毒になったりして、姿は見えなくても、なにがしの菌が存在したことがわかり、身近な食べ物の栄養を取り込んで、非常に増えた状態（餅やパンのカビなど）で目にするところがあるくらいです。

健康な人であれば、菌が体の中に入らないようにバリア（皮膚）や防衛力（免疫システム）を有しているため、危害を受ける機会は少ないのですが、移植を受ける患者さんの場合は、治療によりバリアが弱くなっていたり、移植片が体になじむよう免疫力が抑えられているため、菌に対して無抵抗な状態となっていて、無菌室での生活を余儀なくされます。

安全なさい帯血を 提供するために

無菌室で治療を受けても、移植されるさい帯血に菌が入っていたら大変なことになりますので、さい帯血バンクでは、さい帯血採取時の消毒はもちろん、調製作業は無菌室で行い、さらに凍結直前のさい帯血ひとつ一つについて無菌試験を実施して安全性を確認しています。

写真は現在さい帯血バンクで無菌試験用に用いられている培地のボトルです。いろいろな菌の好みの栄養素を満載したスープが入っています。酸素の好き嫌いの好みにも合わせます。培地

の中に凍結前のさい帯血の一部を入れて数日から数週間、環境を整えて培養すると、1匹が2匹に、2匹が4匹に…と増え、培地が濁ってきたり、押し上げられたりしてその存在を徐々に明らかにしてくるのです。それでも増えてこないことを確認して初めて無菌性が保証されます。

無菌性と移植の 有効性のジレンマ

無菌試験に使う凍結前のさい帯血は、量が少なければ菌の検出率が低くなります。でも、量を多くすると移植できる細胞が減ってしまう……というジレンマがありましたが、調製段階で副産物として分離される赤血球層に菌が高率に分布することがわかり、その検査も併せて行うことにより、さらに安全性を高めることが可能となりました。



- 左から
①Bact/ALERT BPA（好気用）（シスメックス・バイオメリュー）
②日赤無菌試験用変法チオグリコール酸培地（栄研化学）
③Oxoid SIGNAL Blood Culture System Medium（OXOID、関東化学）
④日赤無菌試験用ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト培地（栄研化学）
⑤Bact/ALERT PF培養ボトル（小児用）（シスメックス・バイオメリュー）
好気性菌と嫌気性菌の両方をまったく検出するため、③以外は通常2本組み合わせて使用します。

まもなく全バンクで2段階の無菌試験が実施される予定です。

さい帯血バンク道具箱シリーズも今回が最終回です。これまで紹介してきた道具箱の仲間たちは、今日も全国のさい帯血バンクで黙々とそしてしっかりと働いています。より安全で、より有効なさい帯血をお届けするために……。

■善意のお気持ちに感謝します■ ICAP東短証券株式会社様

	6,500,000円
イービーエス ディーリング リソース ジャパン様	628,670円
フェリシモ基金事務局 様	402,975円
モリカワ シュウジ 様	50,000円
フタバメディカル(株) 鈴木 宏承 様	30,000円
宇佐美 浩一 様	12,000円
畑 直行 様	10,000円
河西 俊雄 様	10,000円
堀北 恵理 様	10,000円
河西 澄江 様	10,000円
富岡 玲子 様	10,000円
大寺 信行 様	6,000円
松本 翔次郎 様	5,000円
石川 恵子 様	5,000円
遠藤 律枝 様	1,000円
川尻 恵 様	1,000円
新海 真理子 様	1,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

金融機関名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：9900
支店番号：019
預金種目：当座
口座番号：0057390
口座名義：日本さい帯血バンクネット
ワーク